

しあわせ倍增プラン2013 平成27年度達成状況報告書

(内部評価)



平成28年9月

さいたま市

「しあわせ倍増プラン2013 平成27年度達成状況報告書」目次

1	達成状況の概要	1
	(1) しあわせ倍増プラン2013の進行管理の概要	1
	(2) 平成27年度達成状況評価	1
	(3) 評価結果の概要	2
2	各事業の達成状況	8

1 達成状況の概要

(1) しあわせ倍増プラン2013の進行管理の概要

「しあわせ倍増プラン2013（以下「倍増プラン」という。）」は、市長が掲げた「新しあわせ倍増計画」をもとに、着実に推進していくため、平成25年度から平成28年度の4年間を計画期間とし、10分野60項目111事業により構成される行政計画として、平成25年12月に策定しました。倍増プランの各事業には、4年間の具体的な数値目標や取組内容を掲げるとともに、事業達成時に市民生活にどのような効果があるかも示しています。

平成25年度については、市が自ら内部評価を行い、平成26年9月にその結果を公表しました。

平成26年度については、前年度同様に内部評価を行うとともに、市民や有識者等で構成する市民評価委員会において、倍増プランに掲げた事業の進捗状況や成果について、市民目線での意見、提案等をいただきながら、外部評価を行いました。

平成27年度についても、前年度同様に内部評価を行い、引き続き、市民評価委員会による外部評価を進めているところです。

また、平成28年度は、倍増プラン計画期間の最終年度となることから、4年間の達成見込みに基づく「最終（見込み）評価」を外部評価により実施します。

(2) 平成27年度達成状況評価

平成27年度実績に基づく内部評価に当たっては、倍増プランの111事業を対象とし、各事業に記載されている「(2) 各年度の目標と取組内容（工程表）」のうち、平成27年度の「各年度の数値目標等」に対する達成状況を対象として、評価を実施しました。「各年度の数値目標等」に定量的な目標が設定されている事業の評価については、110%以上を達成した事業を「A 目標を上回って達成」、90%以上110%未満の達成状況の事業を「B 目標をおおむね達成」、90%未満しか達成できなかった事業を「C 目標を未達成」とする3区分としました。

なお、「C 目標を未達成」と評価した事業については、何が支障となり、どのような対応を行っていくのかを明らかにするため、本報告書に課題と対策を記載しています。

また、評価に当たっては、原則平成28年3月31日時点を基準としました。

表 1 定量的な目標に係る区分

評価	達成度
A 目標を上回って達成	110%以上
B 目標をおおむね達成	90%以上～110%未満
C 目標を未達成	90%未満

(3) 評価結果の概要

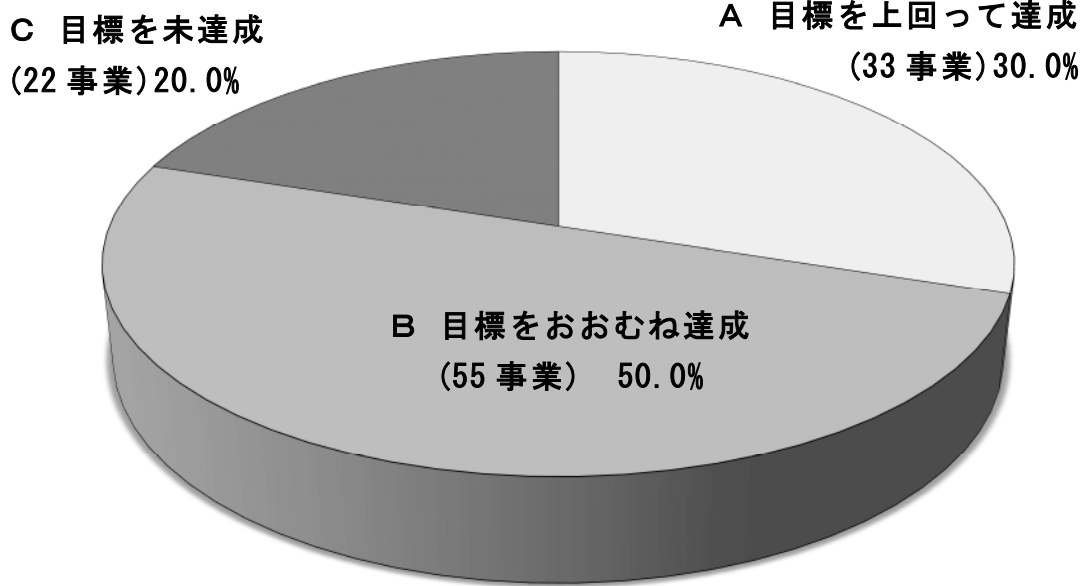
倍増プラン全111事業のうち、昨年度までに完了している1事業を除く110事業の平成27年度の達成度について評価したところ、33事業が「目標を上回って達成」、55事業が「目標をおおむね達成」、22事業が「目標を未達成」となりました。その結果、「目標を上回って達成」と「目標をおおむね達成」を合わせた「目標を達成」した事業は110事業中88事業となり、割合では80.0%となりました。

分野別では、「1 子どもと親のしあわせ倍増」において9事業が、また「2 若者のしあわせ倍増」において3事業が、「目標を上回って達成」となりそれぞれ75%を占めたほか、「4 障害者のしあわせ倍増」の分野においても「目標を上回って達成」している事業の比率が高い結果となりました。なお「10 まちづくり・コミュニティ」、の分野では、「目標を未達成」となった事業の比率が高い結果となりました。

表 2 平成27年度達成状況

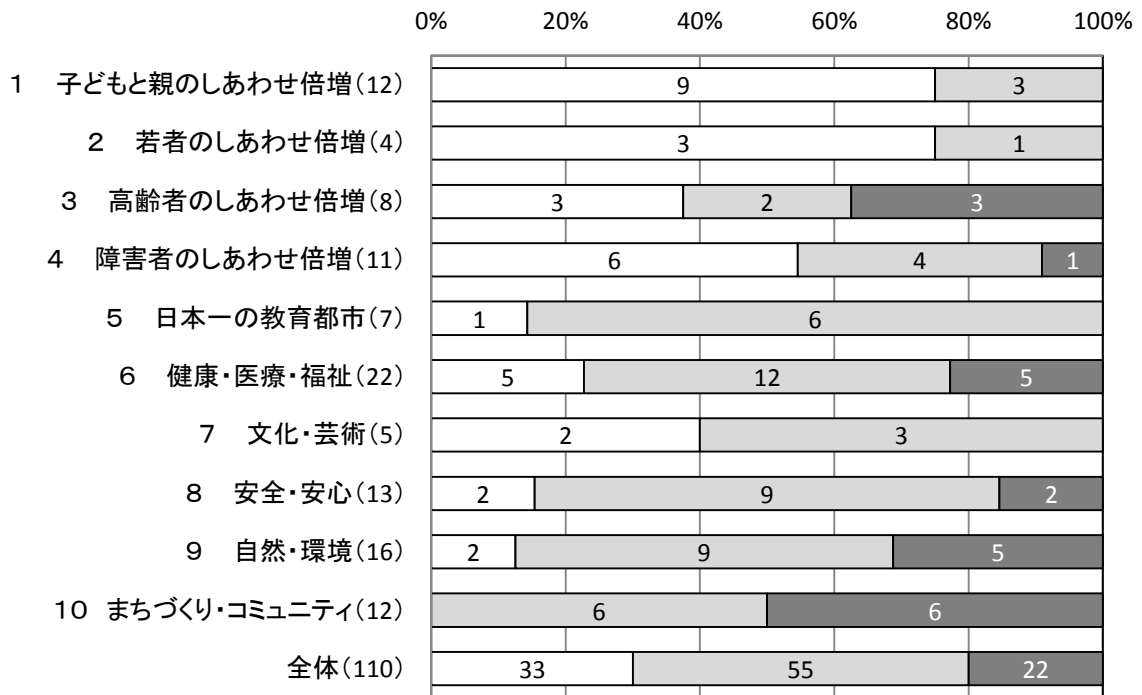
分野	事業数	達成度評価		
		A 目標を上回って達成	B 目標をおおむね達成	C 目標を未達成
1 子どもと親のしあわせ倍増	12	9	3	0
2 若者のしあわせ倍増	4	3	1	0
3 高齢者のしあわせ倍増	8	3	2	3
4 障害者のしあわせ倍増	11	6	4	1
5 日本一の教育都市	7	1	6	0
6 健康・医療・福祉	22	5	12	5
7 文化・芸術	5	2	3	0
8 安全・安心	13	2	9	2
9 自然・環境	16	2	9	5
10 まちづくり・コミュニティ	12	0	6	6
合計 (割合)	110	33 (30.0%)	55 (50.0%)	22 (20.0%)

図1 全体の評価結果



A	目標を上回って達成	33事業 (30.0%)
B	目標をおおむね達成	55事業 (50.0%)
目標を達成		88事業 (80.0%)

図2 分野別の評価結果



□ 目標を上回って達成 □ 目標をおおむね達成 ■ 目標を未達成

表3 「目標を上回って達成」 事業一覧 【33事業】

No.	事業名	掲載ページ
2-1	認可保育所の増設	8
2-2	放課後児童健全育成事業の充実	8
2-3	保育・幼児教育の推進	8
3-1	保育士・幼稚園教諭体験の拡大	8
3-2	子育てパパ応援プロジェクト事業	8
3-3	「親の学習」の推進	9
4-1	ふるさとハローワークの拡充	9
4-2	女性の再就職支援	9
4-3	女性の起業支援	9
6	青少年の居場所事業（さいたま市若者自立支援ルーム）	9
7	若者ユースアドバイザーの養成	9
9	ひきこもり支援の拡充	10
11-1	24時間訪問介護サービスの推進	10
13-1	アクティブチケット事業の拡充	11
14	シニアの社会参加を促進する事業の連携強化	11
15	さいたま市障害者就労施設等からの物品等の優先調達の推進	11
16	屋外での移動が困難な障害者のための外出支援	11
17-2	ユニバーサル就労の実現	12
17-3	障害者の暮らしを支える住まいの整備	12
18	必要のある学校への特別支援学級の設置	12

1 9	ユニバーサルスポーツの推進	1 2
2 5 - 2	スクールサポートネットワーク（SSN）の拡充	1 4
2 8 - 1	西区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	1 4
2 8 - 5	中央区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	1 5
2 8 - 7	浦和区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	1 5
2 8 - 8	南区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	1 6
3 5 - 1	生活困窮者自立支援事業	1 7
3 8 - 1	盆栽文化の振興	1 8
3 9 - 2	子ども読書活動推進事業	1 8
4 1 - 3	防災ボランティアコーディネーターの育成活用	1 9
4 3	身近な地域の防災拠点への支援	2 0
4 9 - 1	全市立学校のエネルギーセキュリティ確保	2 2
4 9 - 3	市有施設太陽光発電設備設置プロジェクト	2 2

表4 「目標を未達成」 事業一覧 【22事業】

No.	事業名	掲載ページ
10	高齢者見守りネットワークの構築	10
12	公認グラウンド・ゴルフ場の整備	10
13-2	シルバーポイント事業（介護ボランティア制度）の拡充	11
20-2	精神障害者に対する支援の拡充	12
26-2	特定健診受診率を60%に向上	14
28-4	見沼区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	15
28-9	緑区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	16
33	がん検診事業	17
34	（仮称）生活保護適正化対策本部の設置	17
41-1	消防団の充実強化に係る事業の推進	19
41-2	防災アドバイザーの育成活用	19
47-1	目指せ日本一！サクラサク見沼たんぼプロジェクト	21
47-2	水辺再生・サポート活動の推進	21
47-3	高沼用水路の整備	21
48	滞在型市民農園と農業交流施設の整備	22
50	環境センターからサーマルエネルギーセンターへ！ ～西部環境センターと東部環境センターの統廃合～	23
52	無電柱化の推進	23
53	身近な公園整備事業	24
56-2	自治会館の整備促進	24
57	NPO等との協働事業の推進	25

59	空き家、空き店舗を活用した地域コミュニティ活性化	25
60-2	(仮称)アーバンデザインセンター大宮の設置	25

2 各事業の達成状況

(1) 子どもと親のしあわせ倍増

1	(仮称)さいたま市子ども総合センターの整備	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績	
		工事の着手		平成27年度前半に作成した建築実施設計に基づき、工事業者を選定し、工事に着手しました。	
		評価	評	価	理
		B	平成27年度の目標である、工事の着手について、平成27年8月に作成した建築実施設計に基づき工事業者を選定し、同年12月に契約を締結し、工事に着手したことから、B評価としました。		
2-1	認可保育所の増設	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績	
		平成28年4月1日時点での認可保育所定員増1,060人(前年比)(定員累計15,523人)		認可保育所等の新規開設18施設(1,460人)及び増設等4施設(70人)により、平成28年4月1日の定員数が、前年対比で1,530人増となりました。(定員累計16,294人)	
		評価	評	価	理
		A	平成27年度の数値目標である、平成28年4月1日時点での認可保育所定員増1,060人(前年比)について、目標を上回る1,530人の定員増を達成できたことから、A評価としました。		
2-2	放課後児童健全育成事業の充実	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績	
		平成28年4月1日時点での受入可能児童数420人増(12か所)		放課後児童クラブ14か所の開設により、平成28年4月1日の受入可能児童数が前年対比で526人増となりました。	
		評価	評	価	理
		A	平成27年度の数値目標である、平成28年4月1日時点での受入可能児童数420人増(12か所)について、目標を上回る526人の受入可能児童数の増員を行うことができたことから、A評価としました。		
2-3	保育・幼児教育の推進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績	
		交流者合計280人以上(実務担当者会、公開保育研究会、小学校等体験研修)		保幼小連携推進実務担当者会、公開保育研究会、保育者小学校等体験研修会、保育者自然体験研修会などの実施により、合計350人の交流を行いました。	
		評価	評	価	理
		A	平成27年度の数値目標である、保育や教育に携わる者280人以上の交流について、目標を上回る350人の交流を実施できたことから、A評価としました。		
2-4	保育コンシェルジュの全区配置による保育相談窓口の強化	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績	
		保育所等入所の相談・案内		・保育所等の相談・案内を約9,500件実施しました。 ・認可保育所入所不承諾者に対して現況調査を実施し、市が認定しているナーサリールーム及び家庭保育室等への案内を行いました。	
		評価	評	価	理
		B	平成27年度の目標である保育所等入所の相談・案内を実施し、現況調査の上、利用者に対して本市の保育資源を活用することができたことから、B評価としました。		
3-1	保育士・幼稚園教諭体験の拡大	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績	
		年間参加者数1,950人(累計5,310人)		父親等の子育て参加を推進するため、様々な媒体を活用した情報提供を行うとともに、参加しやすい弾力的な運営を行うことにより、平成27年度の保育士・幼稚園教諭体験への参加は年間参加者数2,211人(累計7,331人)となりました。	
		評価	評	価	理
		A	平成27年度の数値目標である、保育士・幼稚園教諭体験年間参加者数1,950人(累計5,310人)について、目標を上回る年間参加者数2,211人となったことから、A評価としました。		
3-2	子育てパパ応援プロジェクト事業	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績	
		父親向け講座・イベント等の参加者及び父親の施設利用者数 6,000人		・父親向け講座・イベント等の実施により、8,930人の父親が施設を利用しました。 ・さいたまパパ・スクールを開催し、延べ154人が参加しました。	
		評価	評	価	理
		A	平成27年度の数値目標である、父親向け講座・イベント等の参加者及び父親の施設利用者数6,000人について、目標を上回る9,084人の参加者及び利用者があったことから、A評価としました。		

3-3	「親の学習」の推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		男性参加者の割合12% (延べ参加者数1,200人)	・生涯学習総合センター及び公民館において、親の学習事業を延べ138回実施し、延べ参加者数は1,487人でした。男性の延べ参加者数は415人、男性参加者の割合は27.9%でした。 ・講座の進行役を務めるファシリテーターのフォローアップを実施しました。
		評価	理由
A	平成27年度の数値目標である、男性参加者の割合12%については27.9%となり、延べ参加者数1,200人については1,487人となったことから、A評価としました。		
4-1	ふるさとハローワークの拡充	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		ハローワーク利用者を除くふるさとハローワーク女性利用者総数 延べ2,200人	・7月に、ワークステーションさいたま（ふるさとハローワーク）2階に開設した「再就職チャレンジコーナー」内において、求職中の子育て世代の多様なニーズに応えるサービスを開始し、延べ2,902人の女性が利用しました。 ・ワークステーションさいたま（ふるさとハローワーク）1階「おしごと相談コーナー」において、キャリア・コンサルティングや内職相談等を実施し、延べ1,559人の女性が利用しました。
		評価	理由
A	平成27年度の数値目標である、ハローワーク利用者を除くふるさとハローワーク女性利用者総数延べ2,200人について、4,461人の女性が利用したことから、A評価としました。		
4-2	女性の再就職支援	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		再就職支援事業による就職者の割合 5割以上	就業体験等の再就職支援事業を実施し、就職者の割合64.6%を達成しました。
		評価	理由
A	平成27年度の数値目標である、再就職支援事業による就職者の割合5割以上について、目標を上回る64.6%となったことから、A評価としました。		
4-3	女性の起業支援	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		女性による起業数 8件	女性の起業セミナーの実施などにより、女性の起業数21件を達成しました。
		評価	理由
A	平成27年度の数値目標である、女性による起業数8件について、目標を上回る21件の起業があったことから、A評価としました。		
5	ひとり親家庭高等技能訓練促進費・生活支援給付金支給事業	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		平成27年度の養成機関修了者の常勤就職・進学率85%	平成27年度養成機関修了者16名のうち、常勤就職・進学者は14名となり、常勤就職・進学率88%を達成しました。
		評価	理由
B	平成27年度の数値目標である、平成27年度の養成機関修了者の常勤就職・進学率85%について、88%となったことから、B評価としました。		

(2) 若者のしあわせ倍増

6	青少年の居場所事業 (さいたま市若者自立支援ルーム)	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		さいたま市若者自立支援ルームの年間利用者数 延べ5,800人	平成27年度の年間利用者数は、午前の部延べ1,768人、午後の部延べ5,347人、合計7,115人でした。
		評価	理由
A	平成27年度の数値目標である、さいたま市若者自立支援ルームの年間利用者数延べ5,800人について、目標を上回る7,115人となったことから、A評価としました。		
7	若者ユースアドバイザーの養成	数値目標等	実績
		ユースアドバイザー20人養成(累計40人)	11月4日・9日にブラッシュアップ研修を実施し、受講者20人、また、3月16日にスキルアップ研修を実施し、受講者24人の合計44人の受講者に修了証を授与しました。
		評価	理由
A	平成27年度の数値目標である、ユースアドバイザー20人養成(累計40人)について、目標を上回る24人の受講者が研修を修了したことから、A評価としました。		

8	地域若者サポートステーションの設置	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		若年者就業支援による就職等進路決定者数140人（累計400人）	地域若者サポートステーション事業をはじめとする各種若年者就業支援を実施し、145人の就職等進路決定者数を達成しました。
		評価	評 価 理 由
		B	平成27年度の数値目標である、若年者就業支援による就職等進路決定者数140人(累計400人)について、145人の進路が決定したことから、B評価としました。
9	ひきこもり支援の拡充	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		(仮称) ひきこもりサポーターを年50回派遣	ひきこもりの方やその家族を支援するリレートサポーターを年71回派遣しました。
		評価	評価理由
		A	平成27年度の数値目標である、(仮称)ひきこもりサポーター年50回の派遣について、目標を上回る年71回の派遣となったことから、A評価としました。

(3) 高齢者のしあわせ倍増

10	高齢者見守りネットワークの構築	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		見守りネットワークづくりの推進(494団体[自治会])	見守り奨励金等の制度の創設はできませんでした。 なお、既存の制度下で、48地区社会福祉協議会のうち33地区において高齢者等を対象とした見守り活動を実施しました。
		評価	評 価 理 由
		C	平成27年度の数値目標である、見守りネットワークづくりの推進(494団体[自治会])について、見守り奨励金等の制度の創設ができなかったことから、C評価としました。
		課題	見守りを行う地域団体(自治会、地区社会福祉協議会)に対し、負担増とならないよう、制度設計及びその説明をすることが課題です。
対策	・既存の補助制度(さいたま市社会福祉協議会運営補助金)に、見守り活動について拡充する形で、奨励金を制度化することにより、新たに補助金交付の手続きを増やすことなく、奨励金が交付できるよう検討しています。 ・地域への説明に当たっては、社協、民児協、自治連のそれぞれに説明を行うとともに、個別説明を充分に行います。		
11-1	24時間訪問介護サービスの推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		市内90%の地域にサービス提供される環境を整備	市内100%の地域に24時間訪問介護サービスが提供される環境を整備しました。(岩槻区1か所の事業所を開設)
		評価	評 価 理 由
		A	平成27年度の数値目標である、市内90%の地域にサービス提供される環境整備について、目標を上回る100%の環境を整備できたことから、A評価としました。
11-2	介護者サロン・カフェの増設	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		介護者サロン(27か所・460回)、カフェ(2か所)の実施	・介護者サロンについて、市内の各シニアサポートセンター(地域包括支援センター)27か所で合計632回開催しました。 ・介護者カフェについて、実施者を募集し、市内2か所で介護者カフェを実施しました。
		評価	評 価 理 由
		B	平成27年度の数値目標である、介護者サロンの開催(27か所・460回)について、27か所で合計632回開催し、目標を達成できました。また、介護者カフェについて、目標どおり市内2か所で実施することができたことから、B評価としました。
12	公認グラウンド・ゴルフ場の整備	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		工事着工	・基本設計を修正し、詳細設計に着手しました。 ・地元説明会を3回実施しました。
		評価	評 価 理 由
		C	平成27年度の目標である、工事着工について、基本設計の修正、関係機関等との協議に時間を要し、工事着工に至らなかったため、C評価としました。
		課題	整備面積を1万㎡未満の開発に縮小して工事を行う方針転換を行いました。地元からは、未整備地域の利用について要望があり、この部分について理解を得ることができていません。
対策	1万㎡を超えて工事を行うことができないことを地元の説明します。		

13-1	アクティブチケット事業の拡充	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		利用枚数14,000枚		アクティブチケットについて、チラシの頒布などの宣伝を行い、平成27年度の利用枚数は47,535枚となりました。		
		評価	評価理由			
		A	平成27年度の数値目標である、アクティブチケットの利用枚数14,000枚について、目標を上回る47,535枚となったことから、A評価としました。			
13-2	シルバーポイント事業（介護ボランティア制度）の拡充	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		介護ボランティア制度登録者9,200人		介護ボランティア制度について、制度登録者は、7,551人となりました。		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の数値目標である、介護ボランティア制度登録者9,200人について、7,551人となり、目標を達成できなかったことから、C評価としました。			
		課題	介護ボランティア制度の周知が十分に実施できていないことが課題です。			
対策	市民に対して今まで実施していなかった広報活動をし、介護ボランティア制度を周知していきます。					
13-3	シルバーポイント事業（長寿応援制度）の拡充	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		長寿応援制度登録者26,700人		長寿応援制度登録者について、制度登録者は、24,873人となりました。		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の数値目標である、長寿応援制度登録者26,700人について、24,873人となったことから、B評価としました。			
14	シニアの社会参加を促進する事業の連携強化	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		シニアユニバーシティ学生、大学院学生の、シルバーバンクもしくはシルバー人材センターへの登録50人		シニアユニバーシティの学生、大学院生及び卒業生に対して、シルバーバンク又はシルバー人材センターへの登録について積極的な勧誘を行い、平成27年度の登録者は108人となりました。		
		評価	評価理由			
		A	平成27年度の数値目標である、シニアユニバーシティ学生、大学院学生のシルバーバンクもしくはシルバー人材センターへの登録50人について、目標を上回る108人となったことから、A評価としました。			

(4) 障害者のしあわせ倍増

15	さいたま市障害者就労施設等からの物品等の優先調達推進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		発注件数29件（前年度の50%増）		調達目標等を定めた調達方針を策定するとともに、各区役所や部局に障害者就労施設等の紹介を行い、契約に結びつけることができたことにより、庁内での調達は50件となりました。		
		評価	評価理由			
		A	平成27年度の数値目標である、発注件数29件(前年度の50%増)について、目標を上回る50件となったことから、A評価としました。			
16	屋外での移動が困難な障害者のための外出支援	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		事業所数5か所の整備（累計15か所）		移動支援事業所を9か所増設しました。（新規整備事業所17か所、廃止事業所8か所）		
		評価	評価理由			
		A	平成27年度の数値目標である、事業所数5か所の整備(累計15か所)について、目標を上回る9か所となったことから、A評価としました。			
17-1	障害者工賃向上プロジェクトの実施	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		平均工賃月額 19,000円		商品開発支援の実施及び障害者就労施設等に対し優先調達を行うことにより、障害者就労施設等の平均工賃月額18,292円を実現しました。		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の数値目標である、平均工賃月額19,000円について、18,292円となったことから、B評価としました。			

17-2	ユニバーサル就労の実現	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績	
		障害者の一般就労者数180人 (累計510人)	職業訓練や、各種講座等、就労後の定期的な相談及びジョブコーチ等による定着支援を行い、障害者の一般就労者数は222人となりました。	
		評価	評 価 理 由	
A	平成27年度の数値目標である、障害者の一般就労者数180人(累計510人)について、目標を上回る222人となったことから、A評価としました。			
17-3	障害者の暮らしを支える住まいの整備	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績	
		グループホーム24人分増設 (累計36人分)	グループホームの定員増について民間法人や国と協議を進め、設置の促進や施設整備費用の助成を行い、定員を42人分増設しました。(累計72人分)	
		評価	評 価 理 由	
A	平成27年度の数値目標である、グループホーム24人分増設(累計36人分)について、目標を上回る42人分増設することができたことから、A評価としました。			
18	必要のある学校への特別支援学級の設置	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績	
		平成28年4月に特別支援学級を20校で開設 (特別支援学級設置率約65%)	平成28年4月に、小学校19校及び中学校6校の計25校に、特別支援学級を開設しました。 (特別支援学級設置率75%)	
		評価	評 価 理 由	
A	平成27年度の数値目標である、特別支援学級の20校での開設(特別支援学級設置率約65%)について、目標を上回る小学校19校及び中学校6校の計25校で開設することができたことから、A評価としました。			
19	ユニバーサルスポーツの推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績	
		ふれあいスポーツ大会及びノーマライゼーションカップ、(仮称)ユニバーサルスポーツフェスティバルへの合計来場者数2,800人	ふれあいスポーツ大会の来場者数1,163人、ノーマライゼーションカップの来場者数720人、ユニバーサルスポーツフェスティバルの来場者数2,500人となり、合計来場者数が4,383人となりました。	
		評価	評 価 理 由	
A	平成27年度の数値目標である、ふれあいスポーツ大会及びノーマライゼーションカップ、(仮称)ユニバーサルスポーツフェスティバルへの合計来場者数2,800人について、目標を上回る4,383人となったことから、A評価としました。			
20-1	発達障害者・精神障害者支援の拡充	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績	
		7区における、精神保健福祉に関連した相談や、区役所職員への支援(800件)、同行訪問(200件)	5区(南・浦和・緑・北・大宮)において、精神保健福祉に関連した相談や、区役所職員への支援3,923件、及び同行訪問241件を行いました。	
		評価	評 価 理 由	
B	平成27年度の数値目標である、精神保健福祉に関連した相談や区役所職員への支援について、支援件数が3,923件(うち訪問件数241件)となりましたが、7区における支援には至らなかったことから、B評価としました。			
20-2	精神障害者に対する支援の拡充	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績	
		指針に基づく退院支援の実施(地域移行させる目標人数10人)	・平成26年度に地域自立支援協議会において決定した骨子を基に、さいたま市精神障害者退院促進支援指針を策定しました。 ・指針を各関係機関に配布し、指針に基づく退院支援を実施しました。	
		評価	評 価 理 由	
		C	平成27年度の数値目標である、指針に基づく退院支援の実施(地域移行させる目標人数10人)について、6人であったことから、C評価としました。	
		課題	・精神科病院入院患者は、退院する際に自宅に戻ることができない場合が多いため、住まいの場となる社会資源の確保が課題です。 ・家族の理解が得られずに退院できない場合があるため、家族を含めた支援が必要です。 ・病状が安定せずに退院に踏み切れない場合があるため、退院後の継続した支援体制の構築が課題です。	
対策	・退院後の住まいの場を確保するため、グループホーム等の整備を進めます。 ・入院患者及び家族への退院から退院後の継続した支援を実施するため、医療機関や障害者生活支援センター等の関係機関の連携を強化するとともに、ピアサポーターの充実に努めます。			
20-3	発達障害者に対する支援の拡充	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績	
		学生向けキャリア形成支援事業プランの策定	キャリア教育に関連した講座の実施や、体験ワークを実施し、その内容を踏まえ、発達障害者支援連絡協議会などで内容を検討し、学生向けキャリア形成支援事業プランを策定しました。	
		評価	評 価 理 由	
B	平成27年度の目標である、学生向けキャリア形成支援事業プランの策定について、目標どおり策定できたことから、B評価としました。			

		平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
20-4	発達障害児支援の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け勉強会の開催（10回） ・ペアレントトレーニング（1クール11回・8組3グループ）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け勉強会を11回開催しました。 ・ペアレントトレーニングを24組に実施しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成27年度の数値目標について、保護者向け勉強会11回開催、ペアレントトレーニング24組実施となったことから、B評価としました。

(5) 日本一の教育都市

		平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
21-1	中高一貫教育の拡充	詳細な計画の策定	本整備事業に係る具体的な指針等を定め、民間資金等の活用による公共施設等の整備等に関する法律第7条に規定する「特定事業の選定」について公表し、施設整備に係る入札公告を行いました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成27年度の目標である、特色ある教育活動が展開できる中等教育学校の校舎整備に係る詳細な計画の策定について、目標どおり策定することができたことから、B評価としました。
21-2	「国際バカロレア」認定に向けた取組の推進	導入に向けた人材育成の開始	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレア機構が主催するワークショップに教職員2名が参加しました。 ・さいたま市国際バカロレア協議会（有識者による協議会）を開催し、国際バカロレアの認定に向け、研究を進めました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成27年度の目標である、導入に向けた人材育成の開始について、国際バカロレア機構が主催するワークショップへの参加や、有識者による協議会の開催を行うことができたことから、B評価としました。
22-1	給食室の全校整備	—	小学校1校、中学校1校（平成25～27年度継続事業）の給食室整備が完了しました。（160校/160校）
		評 価	評 価 理 由
		—	—
22-2	日本一笑顔あふれる給食～地元シェフと地場産物による食育の推進～	地元シェフによる学校給食を市立小・中・特別支援学校において20校実施（累計60校）	地元シェフによる学校給食を20校で実施しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成27年度の数値目標である、地元シェフによる学校給食を市立小・中・特別支援学校において20校実施（累計60校）について、20校実施できたことから、B評価としました。
23	心のサポート推進事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）美園教育相談室開設 ・中学校教員350人をゲートキーパーとして養成（中学校全教員養成完了） ・小学校教員610人をゲートキーパーとして養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年1月に美園教育相談室・適応指導教室「かけはし」を開設しました。 ・中学校教員260人、小学校教員644人に対して、ゲートキーパー養成研修を実施しました。（中学校全教員養成完了）
		評 価	評 価 理 由
		B	平成27年度の目標どおり、美園教育相談室・適応指導教室「かけはし」を平成28年1月に開設し、対象者904人にゲートキーパー研修を実施できたことから、B評価としました。
24	学校施設リフレッシュ計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設リフレッシュ計画に基づき、大規模改修に向けた設計を実施 ・小中学校のトイレの便器洋式化率45%を達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設リフレッシュ基本計画に基づき、躯体の健全性調査を小学校6校、中学校1校で実施しました。また、耐力度調査を小学校4校で実施しました。 ・小・中学校のトイレの便器洋式化率45%を達成しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成27年度の目標どおり、学校施設リフレッシュ基本計画に基づき、躯体の健全性調査を小学校6校、中学校1校、耐力度調査を小学校4校で実施するとともに、小・中学校のトイレの便器洋式化率45%を達成することができたことから、B評価としました。

25-1	チャレンジスクールの拡充	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		チャレンジスクール参加者数延べ185,000人	平成27年度は、チャレンジスクールに延べ182,444人の参加がありました。
		評価	理由
		B	平成27年度の数値目標である、チャレンジスクール参加者数延べ185,000人について、延べ182,444人の参加があったことから、B評価としました。
25-2	スクールサポートネットワーク（SSN）の拡充	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		学校支援ボランティア数23,600人	市立小・中・特別支援学校において、30,566人の学校支援ボランティアに御協力いただきました。
		評価	理由
		A	平成27年度の数値目標である、学校支援ボランティア数23,600人について、目標を上回る30,566人の方に御協力いただくことができたことから、A評価としました。

(6) 健康・医療・福祉

26-1	地域活動団体と協働した生活習慣病予防の推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		全区での事業実施	・全区からの参加者約300人に通信機能付き歩数計を貸与し、身近な環境で行えるウォーキングを実践していただきました。 ・参加者に対しては、開始時・終了時アンケートを実施し、歩数や体組成のデータ分析やモデル事業の評価を行うとともに、「健康マイレージ制度」の設計等の一助としました。
		評価	理由
		B	平成27年度の目標である、全区での事業実施について、全区から参加があり目標どおり全区での事業実施となったことから、B評価としました。
26-2	特定健診受診率を60%に向上	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		特定健康診査受診率54%	平成27年度の特定健康診査受診率（暫定値）は36.4%です。 （平成28年6月末現在） ※対前年度同月比1.4%上昇
		評価	理由
		C	平成27年度の数値目標である、特定健康診査受診率54%について、受診率向上対策として、電話や文書による受診勧奨や、健診受診者に抽選で賞品をプレゼントする受診キャンペーンの賞品を増やし、より充実させて実施しましたが、目標を達成することができなかったことから、C評価としました。
		課題	特定健診対象者における若年層（40歳代から50歳代）の受診率が低い状況となっています。
対策	・健診受診者に対して抽選でスポーツ観戦チケットや宿泊券等のプレゼントを与える受診キャンペーンを平成28年度も引き続き実施します。 ・今年度より新たな取組として、初めて受診する方へのプレゼントするキャンペーンを実施し、未受診者の多い若年層の受診率を向上させることで全体の受診率向上を図ります。 ・電話による受診勧奨を、平成28年8月上旬より実施します。		
27	健康マイレージ制度の創設	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		・制度設計 ・協力企業・団体等との協議	平成28年度の本格的な運用開始に向け、制度設計を行うとともに「歩数」や「健診受診」に対してポイントを付与し、ポイントに応じた特典を受けることができるシステムを構築しました。
		評価	理由
		B	平成27年度の目標である、制度設計、協力企業・団体等との協議について、目標どおり事業を進めることができたことから、B評価としました。
28-1	西区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		・ウォーキングイベント参加者数 600人 ・ウォーキング講習会参加者数 30人	ウォーキングイベント及びウォーキング講習会を開催しました。 ・ウォーキングイベント参加者数：927人 「駅からハイキング」（参加者数：873人） 「ウォークラリー大会」（参加者数：54人） ・ウォーキング講習会参加者数：64人
		評価	理由
		A	平成27年度の数値目標である、ウォーキングイベント参加者数600人、ウォーキング講習会参加者数30人について、目標を上回るウォーキングイベント参加者数927人、ウォーキング講習会参加者数64人となったことから、A評価としました。

28-2	北区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		ウォーキングイベントの参加者50人	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年11月に、北区ウォーキングガイドのコースを活用したウォーキングイベントを開催しました。(参加者数：51人) 平成27年7月に、北区推奨ジョギングコースを掲載したチラシを作成しました。 北区ガイドマップの記事面にウォーキングコースを掲載し、PRしました。
		評価	評価理由
		B	平成27年度の数値目標である、ウォーキングイベントの参加者50人について、参加者数が51人となったことから、B評価としました。
28-3	大宮区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		(仮称)地域資源散策マップのコースを散策するイベント参加者50人	<ul style="list-style-type: none"> 観光ボランティアガイド会の案内のもと、散策マップのコースを巡る散策ツアーを平成28年3月に実施しました。(参加者数：53人) 大宮区推奨ジョギングコースに選定した大宮第三公園内のコースをガイドマップや区報にてPRしました。
		評価	評価理由
		B	平成27年度の数値目標である、(仮称)地域資源散策マップのコースを散策するイベント参加者50人について、参加者数が53人となったことから、B評価としました。
28-4	見沼区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> 「てくてく見沼」参加者アンケート満足度75%以上 見沼区健康カレッジ参加者75人 	<ul style="list-style-type: none"> 設定したウォーキングコースを取り入れたウォーキングイベント「てくてく見沼」は、雨天の為中止となり、アンケートを実施することができませんでした。 見沼区健康カレッジに替わる教室「アラフォーからのボディレッスン」及び「のびのび☆健幸ウォーキング」を開催しました。(参加者数：124人) 見沼区健康カレッジ同窓会によるコースの活用者 延67人
		評価	評価理由
		C	平成27年度の数値目標である、「てくてく見沼」参加者アンケート満足度75%については、対象者を市内全域に拡大し、多くの方にご参加いただけるようにしましたが、雨天中止となりアンケート未実施となったため測定できませんでした。また、見沼区健康カレッジに替わる教室の参加者75人については、目標を上回る124人となりましたが、「てくてく見沼」参加者アンケートの満足度が測定できなかったことから、C評価としました。
		課題	見沼区健康カレッジは目標達成となりましたが、「てくてく見沼」は、雨天中止のため目標未達成となりました。「てくてく見沼」の事業実施は、参加者数並びにアンケート回収数が少ないことが課題と考えています。より多くの方に参加いただけるようPR方法の工夫や、イベント内容の充実を図ることが必要です。
対策	<ul style="list-style-type: none"> 市報や公共施設でのPRの他に、SNSを使用したPRを検討します。 自然観察のほか文化財を巡る要素も充実させること、開催季節を変えることや複数のコースを組み合わせるなど、イベントの魅力アップを図り集客力を向上させます。 		
28-5	中央区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		散策会参加者150人	「バラのまち中央区ふるさとウォーキング」を開催しました。(参加者数：167人)
		評価	評価理由
		A	平成27年度の数値目標である、散策会参加者150人について、参加者数が目標を上回る167人となったことから、A評価としました。
28-6	桜区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> のびのびウォーキング延べ参加者500人 その他ウォーキングイベントでのウォーキング参加者60人 	<ul style="list-style-type: none"> のびのびウォーキングを開催しました。(延べ参加者数：1,687人) 平成27年11月に「桜区再発見ウォーキング」を開催しました。(参加者数：54人)
		評価	評価理由
		B	平成27年度の数値目標である、のびのびウォーキング延べ参加者500人、その他ウォーキングイベントでのウォーキング参加者60人について、のびのびウォーキング延べ参加者数1,687人、桜区再発見ウォーキング参加者数54人となったことから、B評価としました。
28-7	浦和区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		ウォーキングイベントの参加者120人	<ul style="list-style-type: none"> JR東日本等の各種団体と協力し、「浦和区ぶらり散歩～浦和区民まつりを愉しむ～」を平成27年11月に実施しました。(参加者数：1,611人) 「浦和区ぶらり散歩～上木崎界限から見沼を歩く～」を平成28年3月に実施しました。(参加者数：38人)
		評価	評価理由
		A	平成27年度の数値目標である、ウォーキングイベント参加者120人について、参加者数が目標を上回る1,649人となったことから、A評価としました。

28-8	南区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング教室の参加者150人（2団体） ・駅からハイキングの参加者1,500人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング・ジョギング教室を実施しました。（参加者数合計：219人） ①主催事業 イベント開催数 4回 参加者計 107人 ②共催事業 イベント開催数 1回 参加者計 82人 ③後援事業 イベント開催数 1回 参加者計 30人 ・平成27年9月に「南区駅からハイキング」を開催しました。（参加者数：1,667人）
		評価	理由
A	平成27年度の数値目標である、ウォーキング・ジョギング教室の参加者150人（2団体）、駅からハイキングの参加者1,500人について、ウォーキング・ジョギング教室の参加者数は219人、駅からハイキングの参加者数は1,667人となり、目標を上回ったことから、A評価としました。		
28-9	緑区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		秋の緑区見沼たんぼ散策の参加者300人	秋の緑区見沼たんぼ散策に替わる、ウォーキングイベントの新事業として、「緑区お宝散策」を計6回開催しました。（参加者数：合計238人）
		評価	理由
		C	平成27年度の数値目標である、秋の緑区見沼たんぼ散策の参加者300人について、それに替わり「緑区お宝散策」を開催しましたが、参加者数は238人となり、目標を下回ったことから、C評価としました。
課題	秋の緑区見沼たんぼ散策に替わる「緑区お宝散策」を新事業として立ち上げるまでに多くの時間を要し、事業そのもののスタートが遅くなり、開催時期が限定されてしまったため、平成27年度では開催日が一つの月の3日間に集中し、かつ1日で午前と午後の2回開催しました。		
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・開催月を複数に増やし、開催日を増やしていきます。かつ、開催日の間隔をあけることで、日程に余裕をもたせ、参加しやすい日程を考えていきます（実行委員会形式の事業のため、実施時期は未定です）。開催時間についても、平成27年度では、全ての開催日で午前に参加人数の多いことが分かったため、午前からのみの1日1回の開催とします。 ・PR方法については、昨年度同様、チラシ、ポスター、ホームページ、さいたま市報緑区版、緑区内公民館だよりを利用し告知していきますが、更に他事業の中でも告知をしていく等、事業そのものが更に普及していくよう、務めていきます。 以上により、更なる参加人数の増加に繋がります。		
28-10	岩槻区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		ウォーキングコース、ジョギングコースのPR、活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング・ジョギングコースを区ガイドマップに掲載・配布するとともに、ホームページにて区内外へ広くPRしました。 ・大宮アルディージャのトレーナーを招き、ウォーキング講習会及びウォーキングイベントを開催しました。（参加者数：101人） ・市民活動団体、目白大学と協働・連携して健康ウォーキングイベント（2回目）を開催しました。（参加者数：106人）
		評価	理由
B	平成27年度の目標である、ウォーキングコース、ジョギングコースのPR・活用について、目標どおり事業を実施することができたことから、B評価としました。		
29	社会保険大宮総合病院の移転存続	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ・市が所有することになる現病院の敷地を貸し付け、新病院完成まで診療を継続 ・新病院開設に向けた協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市が所有する現病院の敷地を独立行政法人地域医療機能推進機構に貸し付け、診療を継続して行っています。 ・新病院建設計画の進捗状況について、随時確認を行いました。
		評価	理由
B	平成27年度の目標である、現病院の敷地の貸し付け、新病院完成までの診療の継続及び新病院開設に向けた協議について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。		
30	小児・周産期医療の拡充	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との連携、情報共有 ・さいたま赤十字病院への市有地の貸付（新病院建設） 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備を行うさいたま赤十字病院、埼玉県立小児医療センター、埼玉県、日本赤十字社埼玉県支部、関係団体と連携し、整備のための情報を共有しました。 ・さいたま赤十字病院へ市有地を貸し付けました。
		評価	理由
B	平成27年度の目標である、関係団体との連携、情報共有及びさいたま赤十字病院への市有地の貸付について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。		
31	市立病院の施設整備事業の推進と救命救急センターの設置	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		実施設計実施	平成28年3月に実施設計を完了しました。
		評価	理由
B	平成27年度の目標である、実施設計実施について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。		

3 2	さいたま市がん対策基本計画の策定、がん対策の強化	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		がん対策基本計画の策定		さいたま市がん対策推進協議会を3回開催し、本市のがん対策について幅広い意見を集約するとともに、がん対策に関する事業所調査を行い、「さいたま市がん対策推進計画」を策定しました。		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の目標である、がん対策基本計画の策定について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。			
3 3	がん検診事業	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		5がんの平均受診率35%		5がん（胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん）検診の受診率向上のため、全対象者へ個別勧奨はがきを送るなどの取組を行い、平成27年度の平均受診率は30%となりました。		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の数値目標である、5がんの平均受診率35%について、30%であったことから、C評価としました。			
		課題	平成27年度までの実績及び見込を見ると、受診者数は伸びているものの受診率は次第に横ばいになってきています。この主な要因は高齢化の進展による対象者数の増加であると考えられます。今後も対象者数が増加していくことが予想されるため、受診率の向上が期待される年齢層や検診の種類等にターゲットを絞るなど、さらに効果的な受診勧奨対策の実施が必要です。			
対策	<ul style="list-style-type: none"> 今後の受診率向上については、国の精度管理マニュアル等にも個別勧奨が有効とされていることから、受診率の向上が期待される年齢層や検診の種類等にターゲットを絞った効果的な受診勧奨が必要です。 平成28年度においては、6月頃に特定年齢の方への乳がん・子宮頸がん検診の無料クーポン券を送付するほか、前年度より実施しているがん検診の未受診者への再勧奨はがきの送付について、前年度の実績を分析し、勧奨効果が高い年齢層への個別勧奨を重点的に実施し、成人式における子宮頸がん検診のPR映像の放映など、新たに市のがん検診の対象になった方への制度の周知も引き続き行います。 					
3 4	(仮称)生活保護適正化対策本部の設置	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		<ul style="list-style-type: none"> (仮称)生活保護適正化対策本部の開催 関係部署の連携による指導・支援の効果として不適切な施設の入所者数100人減少 		<ul style="list-style-type: none"> さいたま市生活保護適正化対策本部会議を平成27年8月に開催し、生活保護の適正化に向けて庁内連携を図りました。 平成28年3月末の施設入所者数は、対前年比で21人減少しました。 		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の目標である、(仮称)生活保護適正化対策本部の開催及び不適切な施設入所者数100人減少について、さいたま市生活保護適正化対策本部を目標どおり開催しましたが、施設入所者の減少数は21人に留まる結果となったことから、C評価としました。			
課題	平成27年10月、市街化調整区域内に開設した定員99人の施設に対しては、同年12月に新規入居の制限を行うとともに、入居者への転居支援を実施していますが、3月末時点において22名が施設内に留まっており、施設閉鎖には至っていません。					
対策	<ul style="list-style-type: none"> 事業者に対しては、同施設に新規入居をさせないよう、継続して指導していくとともに、併せて、他施設も問題事項が無いか継続して調査・指導を実施します。 入居者に対しては区福祉事務所から入居者に対する広報チラシの配布等により、施設からアパート等への移行に向けた働きかけるとともに、居宅移行支援の実施により、全入居者が転居するよう支援します。 					
3 5-1	生活困窮者自立支援事業	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		生活保護受給者等の就労数650人（累計1,950人）		就労支援員やキャリアカウンセラー等の支援により1,272人を就労に結び付けました。		
		評価	評価理由			
A	平成27年度の数値目標である、生活保護受給者等の就労数650人(累計1,950人)について、目標を上回る1,272人が就労できたことから、A評価としました。					
3 5-2	ホットラインの設置	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		ホットラインの運用による生活困窮者の早期発見と不正受給の発見 10件		「生活保護ホットライン」を実施し、生活困窮者及び生活保護の不正受給の9件の事案について、早期発見・早期対応を行いました。		
		評価	評価理由			
B	平成27年度の目標である、ホットラインの運用による生活困窮者の早期発見と不正受給の発見10件について、9件の事案に対応できたことから、B評価としました。					

36	DV防止対策と被害者支援の拡充	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		次期DV防止基本計画の策定		平成28年3月に、次期さいたま市DV防止基本計画を策定しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成27年度の目標である、次期DV防止基本計画の策定について、目標どおり策定することができたことから、B評価としました。			

(7) 文化・芸術

37	(仮称)さいたまトリエンナーレの開催	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		プレイベントの開催		<ul style="list-style-type: none"> ・開催準備として、参加アーティストを招聘し、候補会場の下見を行いました。また、市民参加事業のスキームを構築するとともに、運営ボランティア(サポーター)の募集を開始したほか、事業計画の詳細設計となる「実施計画」を取りまとめ発表いたしました。 ・広報・プロモーションとして、5つのプレイベントを開催し、トリエンナーレの開催PRを行いました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成27年度の目標である、プレイベントの開催について、目標どおり5つのプレイベントを開催できたことから、B評価としました。			

38-1	盆栽文化の振興	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		年間来館者目標数65,000人(平成24年度比30%増)		<ul style="list-style-type: none"> ・企画展及び特別展を計16回行うとともに、学校教育や各種団体との連携による学校校外学習指導などを行い、年間来館者数が平成24年度比約49%増の73,717人となりました。 ・「国際盆栽シンポジウム」を開催し、世界盆栽大会の機運醸成を図りました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		A	平成27年度の数値目標である、年間来館者目標数65,000人(平成24年度比30%増)について、目標を上回る73,717人となったことから、A評価としました。			

38-2	(仮称)文化基金の設置	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		基金の積立・管理運用		文化芸術都市創造基金へ、一般財源、寄附金及び預金利子の積立を行いました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成27年度の目標である、基金の積立、管理運用について、目標どおり進めることができたことから、B評価としました。			

39-1	多様な市民ニーズに応える図書館機能の充実	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		市民一人当たりの貸出数 8.8点		平成27年度は、図書館25館(うち1館は平成28年1月閉館)で約16万3千点の資料を新たに受入れ、約1,005万点の貸出がありました。市民一人当たりの貸出数は7.9点でした。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成27年度の数値目標である、市民一人当たりの貸出数8.8点について、7.9点となったことから、B評価としました。			

39-2	子ども読書活動推進事業	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生不読者 2.5%以下 ・中学生不読者 5.5%以下 		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の不読者は1.8%、中学生の不読者は1.3%になりました。 ・小学生を対象に「としょ丸どくしょてちょう」を配布しました。 ・中学校を対象にして、学級文庫図書を24校に貸し出しました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		A	平成27年度の数値目標である、小学生不読者2.5%以下、中学生不読者5.5%以下について、小学生不読者1.8%、中学生不読者1.3%となり、目標を上回って達成したことから、A評価としました。			

(8) 安全・安心

40-1	WHOセーフコミュニティの認証取得	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		セーフコミュニティ活動の展開		<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全に関する取組を行っている地域団体等にセーフコミュニティについて説明し、協力依頼をしました。 ・データ分析検討会議、セーフコミュニティ推進協議会を開催し、対策する分野の決定、活動開始宣言を行いました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成27年度の目標である、セーフコミュニティ活動の展開について、セーフコミュニティ推進協議会においてセーフコミュニティで取り組む対策等を決定しセーフコミュニティ活動を開始したことから、B評価としました。			

40-2	WHOのインターナショナルセーフスクール認証取得	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ・インターナショナルセーフスクール認証取得の取組着手の表明 ・安全向上に向けた取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・認証センターと契約し、取組の支援を受けました。 ・モデル校において取組着手を表明しました。 ・モデル校において学校の安全性の向上に向けた取組を推進しました。
		評価	評価理由
		B	平成27年度の目標である、インターナショナルセーフスクール認証取得の取組着手の表明、安全向上に向けた取組の推進について、目標どおり進めることができたことから、B評価としました。
40-3	ASUKAモデルの普及や発信	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		市立小・中・高等・特別支援学校におけるAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習100%実施	全ての市立小・中・高等・特別支援学校において、児童生徒にAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を実施しました。
		評価	評価理由
		B	平成27年度の数値目標である、市立小・中・高等・特別支援学校におけるAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習100%実施について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。
41-1	消防団の充実強化に係る事業の推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ・新設分団車庫整備（設計3棟） ・消防団員増員（純増25名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・分団車庫整備については、数値目標の設計3棟に対し0棟となりましたが、このうち2棟は用地取得のための不動産鑑定を実施しました。なお、既存分団車庫は、4棟の新築・改築工事を行いました。 ・消防団員増員については、各種広報活動、地域との調整を実施しましたが、数値目標の25名に対し1名の増員となりました。
		評価	評価理由
		C	平成27年度の数値目標である、新設分団車庫整備（設計3棟）、消防団員増員（純増25名）について、新設分団車庫整備設計0棟、消防団員純増1名となったことから、C評価としました。
		課題	全国的には消防団員が減少している中、本市については退団者の増加はありますが、入団者数も増加しており微増ですが増員され対策の一定の効果が表れています。しかし、目標の純増25名には達していない状況であることから消防団に対する市民の理解度・認知度向上とともに、消防団活動に魅力が感じられる対策を講じる必要があります。
対策	団員の定員や平均入団年数を考慮し、一定期間が経過し現在の入団者数が確保されれば、将来的には充足率の向上が見込まれます。市民の理解度・認知度向上のため、自治会や自主防災組織との連携を深めるとともに、若年層の入団促進を図ります。また、処遇の改善や、活動環境の整備を図ります。		
41-2	防災アドバイザーの育成活用	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		避難場所運営訓練への参加率90%	<ul style="list-style-type: none"> ・防災アドバイザーのスキルアップ研修として、平成27年11月に地域で実践するための避難所運営ゲーム（HUG）の講座を実施しました。 ・避難場所運営訓練への参加の呼びかけを行ったことで、避難場所運営訓練への参加率が80%となりました。
		評価	評価理由
		C	平成27年度の数値目標である、避難場所運営訓練への参加率90%について、参加率80%となったことから、C評価としました。
課題	防災アドバイザーは、自主的に活動するほか、地域からの要請に応じて活動することもあり、防災アドバイザー自身の環境や、地域の環境などによっても、その活動に差が生じる場合が考えられます。		
対策	防災アドバイザーがより効果的に活動できるよう、防災アドバイザーのスキルアップを図る研修などを開催するほか、防災アドバイザーの活動をホームページや市報などにおいて市民周知を図るなど、支援体制づくりを今後も推進していく必要があります。		
41-3	防災ボランティアコーディネーターの育成活用	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		災害ボランティアセンター運営訓練への延べ参加率85%	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ボランティアコーディネーターのスキルアップ研修として、平成27年10月に被災者ニーズの聞き取りやボランティアニーズの振り分けなどロールプレイング形式の実践型研修を実施しました。 ・総合防災訓練において、災害ボランティアセンター運営訓練を実施し、延べ参加率が95%となりました。
		評価	評価理由
		A	平成27年度の数値目標である、災害ボランティアセンター運営訓練への延べ参加率85%について、目標を上回る延べ参加率95%となったことから、A評価としました。
41-4	中学校での防災教育	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		全ての中学校において、教育課程に位置付けた防災教育と、緊急地震速報を活用した避難訓練	全ての中学校（57校）において、教育課程に位置付けた防災教育と、緊急地震速報を活用した避難訓練を実施しました。
		評価	評価理由
		B	平成27年度の目標である、全ての中学校における教育課程に位置付けた防災教育と、緊急地震速報を活用した避難訓練について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。

4 2	高層マンションの自主防災組織等・防災備蓄の推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		マンション管理組合に対する防災セミナーの実施（参加者150人）	・平成27年11月に、マンション管理組合を対象とした防災セミナーを開催し、144名が参加しました。 ・マンション特有の防災対策促進のため、防災セミナーやマンションを対象とした出前講座などを通じて、「高層マンション防災ガイドブック」を配布しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成27年度の数値目標である、マンション管理組合に対する防災セミナーの実施（参加者150人）について、参加者が144人となったことから、B評価としました。		
4 3	身近な地域の防災拠点への支援	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		モデル事業として地域の防災拠点を整備（5か所）	身近な地域の防災拠点として20か所を登録し、防災備蓄品の貸与を行いました。うち1か所については、市民共同発電事業推進補助金を利用し、太陽光発電設備を整備しました。
		評 価	評 価 理 由
A	平成27年度の数値目標である、モデル事業として地域の防災拠点を整備（5か所）について、目標を上回る20か所の整備ができたことから、A評価としました。		
4 4-1	ゾーン30の推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		6地区の整備（累計23地区）	平成27年度内に、ゾーン30を市内5地区において整備しました。（累計22地区）
		評 価	評 価 理 由
B	平成27年度の数値目標である、ゾーン30の6地区整備（累計23地区）について、5地区の整備（累計22地区）となったことから、B評価としました。		
4 4-2	通学路の安全対策の推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		全ての市立小・中学校において通学路の安全点検を実施し、改善の必要な箇所への対策を実施（安全点検実施率100%）	全ての市立小・中学校において通学路の安全点検を行いました。その結果、対策の必要な箇所については、担当課において路面標示の設置等、交通安全対策を順次実施しました。また、対応が困難な箇所等については、関係機関による合同点検を実施し、担当課において交通安全対策を講じました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成27年度の目標である、全ての市立小・中学校において通学路の安全点検の実施及び改善の必要な箇所への対策の実施について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。		
4 4-3	交通安全教育の推進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		・市立全小学校で「子ども自転車運転免許制度」を実施 ・市立中・高等学校20校でスケアード・ストレイト技法を用いた交通安全教育を実施（累計41校）	・市立全小学校で「子ども自転車運転免許制度」を実施しました。 ・市立中・高等学校21校でスケアード・ストレイト技法を用いた交通安全教育を実施しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成27年度の目標である、市立全小学校での「子ども自転車運転免許制度」の実施については目標どおり実施し、市立中・高等学校20校でのスケアード・ストレイト技法を用いた交通安全教育の実施については21校で実施することができたことから、B評価としました。		
4 4-4	交通安全教室開催事業	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		市交通安全教室開催数 230回	市交通安全教室を248回開催しました。 ※内訳：小学生を対象とした交通安全教室の実施 158回 高齢者を対象とした交通安全教室の実施 52回 保護者や園児を対象とした交通安全教室の実施 38回
		評 価	評 価 理 由
B	平成27年度の数値目標である、市交通安全教室開催数230回について、248回開催することができたことから、B評価としました。		

(9) 自然・環境

4 5-1	見沼たんぼの総合情報発信基地の整備	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		拠点整備	・平成27年10月に、緑区さぎ山記念公園にて「新たな交流の場」運営実験を実施しました。 ・運営実験参加団体等と検討会議を実施し、運営組織や運営ルールを検討しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成27年度の目標である、拠点整備について、目標どおり実施できたことから、B評価としました。		

45-2	国指定史跡見沼通船堀の保全	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績			
		見沼通船堀東縁の再整備実施設計を実施		<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計のための検討会を3回実施し、見沼通船堀東縁の再整備実施設計を行いました。 ・見沼通船堀の価値や再整備を紹介するパンフレットを刊行しました。 			
		評価	評価理由				
		B	平成27年度の目標である、見沼通船堀東縁の再整備実施設計の実施について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。				
46	新セントラルパーク構想	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績			
		見沼土地利用協議		農政部局等との協議を実施するとともに、平成28年度から予定している環境影響評価の実施に向けた準備を行いました。			
		評価	評価理由				
		B	平成27年度の目標である、見沼土地利用協議について、目標どおり実施できたことから、B評価としました。				
47-1	目指せ日本一！サクラサク見沼たんぼプロジェクト	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績			
		桜の植樹（約800m）		<ul style="list-style-type: none"> ・見沼代用水沿いに0.4km、公園等に31本の植樹を行い、植樹祭を開催しました。 ・プロジェクトへの応援サインプレートを1か所設置しました。 ・ベンチ等の憩いの場を6か所整備しました。 			
		評価	評価理由				
			C	平成27年度の数値目標である、桜の植樹（約800m）について、約400mとなったことから、C評価としました。			
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、プロジェクト開始から4年目であり植樹場所の確保が難しい状況になってきています。 ・寄附で植樹した桜であるため、市民や企業を巻き込んで維持管理を行えないか検討する必要があります。 				
	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・植樹場所の確保については、地権者や関係機関と協議を進めます。 ・維持管理については、サポーター制度等の検討を行います。 					
47-2	水辺再生・サポート活動の推進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績			
		「水辺のサポート制度」の参加者数85人増		平成27年度の参加者数は2,031人となり、平成26年度の参加者数2,670人に対して639人の減少となりました。			
		評価	評価理由				
			C	平成27年度の数値目標である、「水辺のサポート制度」の参加者数85人増について、639人の減少となったことから、C評価としました。			
	課題	参加者が高齢層に偏っているため、様々な世代の参加を促し、参加者数を増加させる必要があります。					
	対策	更にインセンティブを高めるために活動報告会や共同清掃活動会の内容を充実させるほか、様々な世代に制度の周知を図ります。					
47-3	高沼用水路の整備	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績			
		約0.7km整備（整備率45%）		<ul style="list-style-type: none"> ・高沼用水路東縁（新中里2丁目付近）及び高沼用水路西縁（鈴谷5丁目付近）における親水型歩行空間約0.7km整備について、整備計画の見直しにより、完成に至りませんでした。 ・市民団体との協議を踏まえながら、平成28年度整備予定箇所の詳細設計を行いました。 			
		評価	評価理由				
			C	平成27年度の数値目標である約0.7km整備（整備率45%）について、整備計画の見直しにより工事着手ができず完成に至らなかったことから、C評価としました。			
	課題	市民団体との協働事業として進めているため、詳細設計に際して市民団体との調整に時間を要します。					
	対策	早期に市民団体との意見交換を実施するとともに、日頃から市民団体と情報共有を図り、円滑な調整に努めます。					

48	滞在型市民農園と農業交流施設の整備	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		交流施設基本設計、実施設計の作成		農業交流施設整備基本計画案を作成しました。		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の目標である、交流施設基本設計、実施設計の作成について、作成することができなかったため、C評価としました。			
		課題	基本計画案において、クリーンセンター大崎敷地を整備候補地として想定しており、当該敷地にある既存施設の整理を伴うことから、工事に着手するまで時間がかかります。			
対策	施設整備には時間がかかることから、地産地消や農業交流の推進など施設整備の目的である都市農業の振興を図ることができるソフト事業を先行して実施できるよう検討します。					
49-1	全市立学校のエネルギーセキュリティ確保	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		60校への太陽光発電設備及び蓄電池の設置		目標である60校及び当初築年数を考慮し設置検討を行っていた12校を含め、平成27年度中に、市立小学校45校、市立中学校26校、高等学校1校の計72校に、太陽光発電設備及び蓄電池を設置しました。		
		評価	評価理由			
		A	平成27年度の数値目標である、60校への太陽光発電設備及び蓄電池の設置について、目標を上回る72校に設置することができたことから、A評価としました。			
49-2	メガソーラー推進事業～SUN-SUN Power Project～	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		新規個所の竣工及び発電開始		「緑区間宮地区メガソーラー推進事業」の発電が開始されました。		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の目標である、新規個所の竣工及び発電開始について、目標どおり事業を進めることができたことから、B評価としました。			
49-3	市有施設太陽光発電設備設置プロジェクト	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		市有施設3か所への太陽光発電設備及び蓄電池の設置		市有施設9か所に太陽光発電設備を設置するとともに、市有施設11施設の太陽光発電設備設置設計業務を実施しました。		
		評価	評価理由			
		A	平成27年度の目標である、市有施設3か所への太陽光発電設備及び蓄電池の設置について、目標を上回る市有施設9か所に太陽光発電設備を設置することができたことから、A評価としました。			
49-4	環境にやさしい小水力発電の推進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		<ul style="list-style-type: none"> ・尾間木小水力発電稼働 ・深作小水力発電稼働 ・設置可能調査（設置可能配水場調査） 		<ul style="list-style-type: none"> ・尾間木小水力発電（年間計画発電量約47万kWh）、深作小水力発電（年間計画発電量約43万kWh）共に年間を通じて稼働しました。 ・新規設置が可能な配水場の検討を行いました。 		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の目標である、尾間木小水力発電稼働、深作小水力発電稼働及び新規設置可能配水場調査について、目標どおり稼働及び実施することができたことから、B評価としました。			
49-5	新クリーンセンター整備によるごみ発電の促進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		発電等施設運営		<ul style="list-style-type: none"> ・特別目的会社による施設の維持管理運営を行いました。 ・施設の維持管理運営が適正に行われているか、モニタリングを実施しました。 ・環境影響評価事後調査を実施しました。 		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の目標である、発電等施設運営について、目標どおり適切に施設を運営することができたことから、B評価としました。			
49-6	木質等バイオマスエネルギーの普及拡大	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		バイオマスエネルギーの活用実現に向けて協議実施		<ul style="list-style-type: none"> ・木質チップを製造する市内事業者とバイオマスエネルギーの活用に向けて協議しました。 ・桜環境センターの稼働により市域のバイオマスエネルギー利用量が増加しました。 		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の目標である、バイオマスエネルギーの活用実現に向けて協議実施について、目標どおり事業を進めることができたことから、B評価としました。			

49-7	市有施設の屋根貸しによる太陽光発電の推進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		屋根貸し事業の開始		平成26年度に基本協定を締結した市有5施設へ、太陽光発電設備設置工事を実施し、発電を開始しました。		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の目標である、屋根貸し事業の開始について、5施設で開始することができたことから、B評価としました。			
49-8	市民ファンド等の市民参画による再生可能エネルギーの導入促進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		市民参画の導入手法について、関係機関や地元企業等との調整		市民共同発電事業推進補助金を実施し、この補助制度を利用した市民共同発電事業の支援を行いました。		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の目標である、市民参画の導入手法について、関係機関や地元企業等との調整について、目標どおり行うことができたことから、B評価としました。			
50	環境センターからサーマルエネルギーセンターへ！～西部環境センターと東部環境センターの統廃合～	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		環境影響評価の準備書を策定		環境に与える影響について評価するため、計画書に基づき本年度は春季、夏季の現況調査を行いました。		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の目標である、環境影響評価の準備書を策定について、環境影響評価の現況調査は完了しましたが、近年の資材、労務単価の高騰等や、ごみ総排出量の見込み量の変化もあり、施設の規模や処理方式等の検討に時間を要しているため、準備書策定ができなかったことから、C評価としました。			
		課題	サーマルエネルギーセンターと併せて整備する余熱体験施設については、都市計画法、建築基準法や農振法等の法令等による設置条件を満たす必要があることから、施設の位置付けについて東楽園との関連性や設置場所、整備手法等を踏まえ、方向性を定める必要があります。			
対策	<ul style="list-style-type: none"> 施設の方向性について都市経営戦略会議に付議し、施設の位置付けと設置場所等の骨子案を作成します。 骨子案をもとに施設の規模や整備手法等の案を含めた基本構想を策定します。 					

(10) まちづくり・コミュニティ

51	暮らしの道路、スマイルロードの整備推進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		150件の整備（累計420件）		暮らしの道路整備事業、スマイルロード整備事業を合わせて年間146件整備しました。		
		評価	評価理由			
		B	平成27年度の数値目標である、年間150件の整備(累計420件)について、146件整備となったことから、B評価としました。			
52	無電柱化の推進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		電線共同溝0.7km整備（累計1.2km）		電線共同溝0.9kmの整備に着手しました。		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の数値目標である、電線共同溝整備0.7km整備(累計1.2km)について、0.9kmの整備に着手しましたが、関係企業との協議に不測の日数を要し完了に至らなかったことから、C評価としました。			
		課題	関係機関が多岐にわたるため、協議に時間を要する事業であり、設計・整備に不測の日数が発生します。			
対策	早期に、また、より綿密な調整を行うことで、円滑な事業進捗に努めます。					

		平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
53	身近な公園整備事業	公園9か所開設（累計20か所）	東宮原ぼうさい広場、白鯉ふれあい公園、三室南宿なかよし公園、新見沼大橋スポーツ広場の4か所を整備し、開設しました。
		評価	評 価 理 由
		C	平成27年度の数値目標である、公園9か所開設(累計20か所)について、予定どおり公園整備に着手しましたが、地元関係者との調整の遅れや工事スケジュールの遅れにより、5か所については年度内の開設ができなかったことから、C評価としました。
		課題	都市公園の設計においては、地元自治会等関係者と意見交換しながら進めていますが、導入する機能等について関係者の合意形成を図ることに多大な時間を要するケースも多く、結果的に整備スケジュールが遅延してしまうことが多くなっています。
		対策	実施設計に先立ち、公園の整備方針及び公園に導入できる機能(若しくはできない機能)について地元住民に対して説明した上で、地元で意見集約を図っていただくことにより、設計期間の短縮が可能となります。
54	駅のバリアフリー化の促進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		バリアフリー設備整備率97.0%(32駅/33駅)	・東宮原駅及びひん羽駅改札内エレベーターを整備、供用開始しました。 ・南浦和駅西口改札外エレベーターを整備、供用開始しました。 ・南浦和駅東口改札外エレベーター整備に着手しました。 ※バリアフリー設備整備率 90.9%(30駅/33駅)
		評価	評 価 理 由
		B	平成27年度の数値目標である、バリアフリー設備整備率97.0%(32駅/33駅)について、目標をおおむね達成できたことから、B評価としました。
55	東日本大震災復興支援を含めた卸売市場活性化事業	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		復興支援物販イベントの定期的実施(年間12回)	大宮市場において、東北地方の水産・農産物を販売する復興支援イベントを開催しました。 ・大規模イベント 4回 ・ミニイベント 8回 計12回開催
		評価	評 価 理 由
		B	平成27年度の数値目標である、復興支援物販イベントの定期的実施(年間12回)について、年間12回開催となったことから、B評価としました。
56-1	自治会加入促進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		自治会加入世帯数2,000世帯増(累計5,500世帯増)	自治会加入世帯は、1,920世帯増えました。(累計6,181世帯増)
		評価	評 価 理 由
		B	平成27年度の計画目標である、自治会加入世帯数2,000世帯増(累計5,500世帯増)について、1,920世帯増となったことから、B評価としました。
56-2	自治会館の整備促進	平成27年度の数値目標等	平成27年度の実績
		自治会集会所整備数35件(累計105件)	自治会集会所を31件整備しました。 ※内訳：建設2件 増改築修繕29件 (平成25年度からの累計整備数90件)
		評価	評 価 理 由
		C	平成27年度の数値目標である、自治会集会所整備数35件(累計105件)について、31件整備となったことから、C評価としました。
		課題	補助制度を利用するにあたり、土地の確保や建設自己資金の工面が困難であるとして、自治会集会所が建設できない自治会があるため、自治会が集会所を保有することができるよう、新たな支援策を講じる必要があります。
対策	平成28年度から、「自治会集会所借上事業補助制度」を創設し、自治会集会所を保有できるよう支援します。		

57	NPO等との協働事業の推進	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		マッチングファンド制度による助成事業の実施(6事業)		・追加募集も含めて5事業の応募があり、5事業実施しました。 ・年間を通じて協働をコーディネートする「協働のテーブル」を23回開催しました。		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の数値目標である、マッチングファンド制度による助成事業の実施(6事業)について、5事業の実施となったことから、C評価としました。			
		課題	寄附や無償の労力の提供を通して多くの市民が市民活動に参加できる環境づくりとして市民活動と協働の推進基金を設立し、その基金を原資に助成制度を実施しており、少しずつ制度も認知されてきていますが、実施事業数や寄附件数がさらに増えるよう制度の認知度や理解度を高める必要があります。			
対策	・市民活動サポートセンターに協働コーナーを設置し、制度や事例の紹介、提案募集の広報等を行います。 ・イベントに合わせた事業PRや各区の市民活動ネットワークに対するPR活動を行っていきます。 ・協働事業の実施に対する希望がある場合は、事業の実現に向けサポートするとともに、採択された事業については円滑に進むよう支援します。					
58	マンション管理組合への支援の拡充	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		マンション訪問数40団地(累計59団地)		旧耐震設計基準以前のマンション40団地を訪問し、ヒアリング等による調査及び管理組合への支援施策の情報提供を実施しました。		
		評価	評価理由			
B	平成27年度の数値目標である、マンション訪問数40団地(累計59団地)について、40団地を訪問することができたことから、B評価としました。					
59	空き家、空き店舗を活用した地域コミュニティ活性化	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		空き店舗を活用した事業開始件数(2件)		計画の認定・サポートを実施するための制度設計を実施し、新たな支援制度を創設しました。		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の数値目標である、空き店舗を活用した事業開始件数(2件)について、開始することができなかったことから、C評価としました。			
		課題	商店会以外にもNPO法人、社会福祉法人等を補助対象としていることから、事業が開始できるように補助事業の募集を行うにあたって周知方法を検討する必要があります。			
対策	周知については、さいたま市HPに掲載し、庁内に対しては周知するとともに情報収集を行います。関係所管から得た情報を元に、対象事業者に対しては直接案内をし、実現可能性のある事業については、積極的に制度の活用を促します。					
60-1	(仮称)アーバンデザインセンターみその設置	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		(仮称)アーバンデザインセンターみその設立		・施設の運営母体として、「公民+学」によって構成される美園タウンマネジメント協会を平成27年8月に設立しました。(協会加入者数22(平成28年3月時点)) ・アーバンデザインセンターみその(UDGMi)を平成27年10月に設置しました。		
		評価	評価理由			
B	平成27年度の目標である、(仮称)アーバンデザインセンターみその設立について、目標どおり事業を進めることができたことから、B評価としました。					
60-2	(仮称)アーバンデザインセンター大宮の設置	平成27年度の数値目標等		平成27年度の実績		
		(仮称)アーバンデザインセンター大宮の設置		まちづくりの情報発信の場「まちラボおおみや」の活動を支援するとともに、(仮称)アーバンデザインセンター大宮の設置に向けた検討及び準備を進めました。		
		評価	評価理由			
		C	平成27年度の目標である、(仮称)アーバンデザインセンター大宮の設置について、平成28年度の設置予定となったことから、C評価としました。			
		課題	大宮駅周辺では、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」(平成22年5月)に基づき、地元と一体となったまちづくりを推進しています。そのため、大宮のまちづくりを推進する(仮称)アーバンデザインセンター大宮の機能、役割、そして方向性について、市民や地元まちづくり団体と意見交換しながら検討を進めてきましたが、これらに時間を要しました。			
対策	学識関係者からの協力を得ることで、行政の考えと市民や地元まちづくり団体等の思いを、専門的な知見に基づき集約、調整し、民・官・学の連携体制を構築します。					

しあわせ倍増プラン2013 平成27年度達成状況報告書（内部評価）

発行年月 平成28年9月
編集発行 さいたま市都市戦略本部都市経営戦略部
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
電話：048(829)1035 FAX：048(829)1997
E-Mail：toshi-keiei@city.saitama.lg.jp